

ラン科植物交配種（カトレヤ系と その他2属）の開花について

磯部 実

本園ではラン科植物、特にカトレヤ属とその近縁属並びにエビネ属を中心に鉢花展示用のための新品種作出及び類縁関係を探るため、開園当初より系統保存している原種を用いた交配を試みている。これまでカトレヤ系の作出した交配種は本紙12号（平成3年）で6品種、23号（平成14年）で10品種、31号（平成22年）で4品種の計20品種を報告した。

またエビネ属については8号（昭和62年）で5品種、11号（平成2年）で10品種の計15品種を報告した。

今回は31号の報告後からこれまで新しく開花したカトレヤ系2品種の交雑組み合わせについて、あわせてエビネ属、オンシジウム系それぞれ1品種についても本園で交雑開花したものについてその特徴を記録した。

Laeliocattleya (Lc.) (*Cattleya* (C.) Stephen Oliver Fouraker × *Laelia* (L.) *anceps* Alba) = Lc. Costal Concept (1983)

偽球茎は長紡錘形。長さ約30cm、幅約5cmの長楕円形の葉を1枚展開する。展開する葉の中心から花茎を伸ばし、3～5個の花をつける。花の自然開帳幅は約12cm。花弁、萼片は白色～淡桃色。花片は幅広く萼片はやや細長い。唇弁は丸く周辺は大きく波打ち濃紫赤色、中心部（喉）は黄色。開花期は冬。交配番号687。（写真1参照）

Lc. (C. Irene Holguin × *L. superbians*) 未登録

偽球茎は長紡錘形。長さ約25cm、幅約5cmの長楕円形の葉を1～2枚展開する。展開する葉の中心から花茎を伸ばし、2～5個の花をつける。花の自然開帳幅は約14cm。花弁、萼片は桃色。花片はやや幅広く萼片はやや細長い。唇弁は丸く周辺は大きく波打ち濃赤色、中心部（喉）は黄色。開花期は春。交配番号701。（写真2参照）

Calanthe (Prince Fushimi 'Ruby King' × *cardioglossa*) 未登録

偽球茎はひょうたん形。長さ約30cm、幅約

8cmの長楕円形の葉を3～5枚展開し、冬季は落葉する。新しい偽球茎基部から花茎を30～40cm伸ばし、5～10個の花をつける。花の自然開帳幅は約2cm。花弁、萼片は濃紫桃色。花片はやや幅広く萼片はやや細長い。唇弁は丸く周辺は大きく波打ち濃紫桃色、中心部（喉）は淡黄色。開花期は冬。交配番号789。（写真3参照）

Brassidium. (*Oncidium* Makalii × *Brassia gireoudiana*) 未登録

偽球茎は紡錘形。長さ約12cm、幅約4cmの長楕円形の葉を2枚展開する。展開する葉の基部から花茎を30～40cm伸ばし、約10個の花をつける。花の自然開帳幅は約8cm。花弁、萼片は黄地に黒褐色の斑紋。花片、萼片は細長い。唇弁は瓢箪形で周辺は大きく波打ち黄色、基部は黄色地に黒褐色斑紋。開花期は夏。交配番号159。（写真4参照）

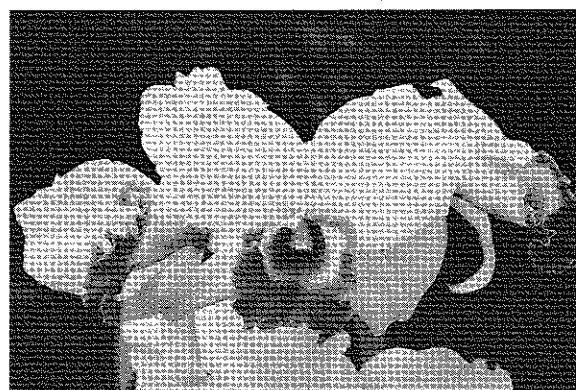


写真1. Lc. Costal Concept



写真2. Lc. (C. Irene Holguin × *L. superbians*)



写真3. *Cal.* (*PrinceFushimi* × *cardioglossa*)



写真4. *Brsdm.* (*Onc. Makalii* × *Brs. gireoudiana*)